

刈谷万燈祭

まんどうまつり

天下の奇祭

愛知県指定無形民俗文化財

ふるさとイベント大賞
内閣総理大臣賞受賞

令和5年

7月29日 土

16時30分～22時00分

7月30日 日

16時50分～22時00分



催事内容

新祭 7月29日 土

全町集合	東陽町	16時30分
全町一斉舞	東陽町	17時00分～17時10分
全町一斉舞	広小路通り	19時50分～20時25分
ふれあいタイム	広小路通り	20時25分～20時40分

本祭 7月30日 日

全町集合	広小路通り	16時50分
神前舞	秋葉社	17時40分～20時35分
全町一斉舞	広小路通り	21時00分～21時10分

会場周辺図



交通アクセス

- ◆名鉄三河線「刈谷市駅」より徒歩約5分
- ◆JR・名鉄「刈谷駅」徒歩約15分

西三河くまの丸
<https://www.nishimikawanavi.jp/>

お問い合わせ

刈谷市観光協会
 午前8時30分～午後5時15分
 TEL0566-23-4100

刈谷駅前観光案内所
 午前10時～午後6時
 TEL0566-45-5833

刈谷万燈保存会
<http://www.katch.ne.jp/~kariya.mando/profile.html>

万燈祭 まんどまつり

【由来】

愛知県の無形民俗文化財に指定されている「万燈祭」は、刈谷市銀座にある秋葉社の祭礼で、江戸時代中期から240年以上続く、火難防除と町内安全を祈願するお祭りです。

宝暦6年(1756年)に火伏せの神をまつる秋葉堂(現：秋葉社)が建立され、その翌年から祭礼が行われました。安永7年(1778年)には笛や太鼓にあわせて「万燈(まんど)」が登場し、昭和の初期頃からは「万燈祭」と称され現在まで引き継がれています。

【万燈とは】

万燈は、竹と和紙で作られた張子人形を色鮮やかに彩色したもので、多くは歌舞伎絵や武者をかたどっています。大きなものは高さ約5メートル、幅約3メートル、重さ約60キロにもなり、これを若衆が一人ずつ交互で担ぎ、笛や太鼓のお囃子に合わせて舞い踊ります。








【お祭】

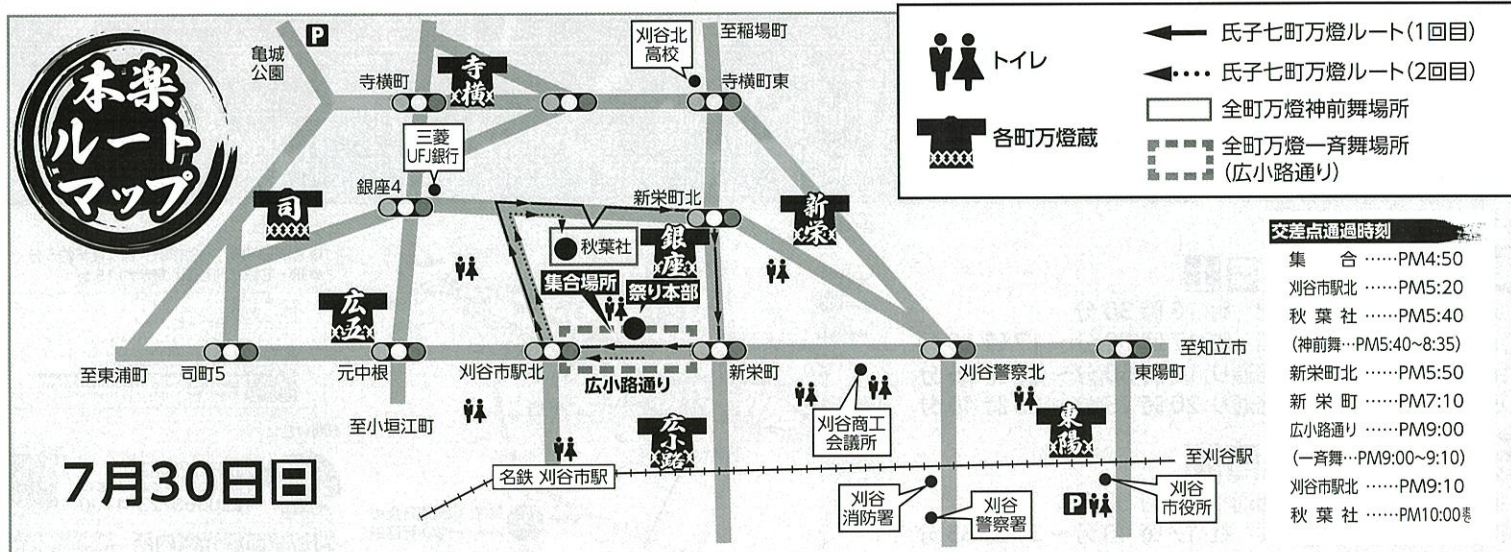
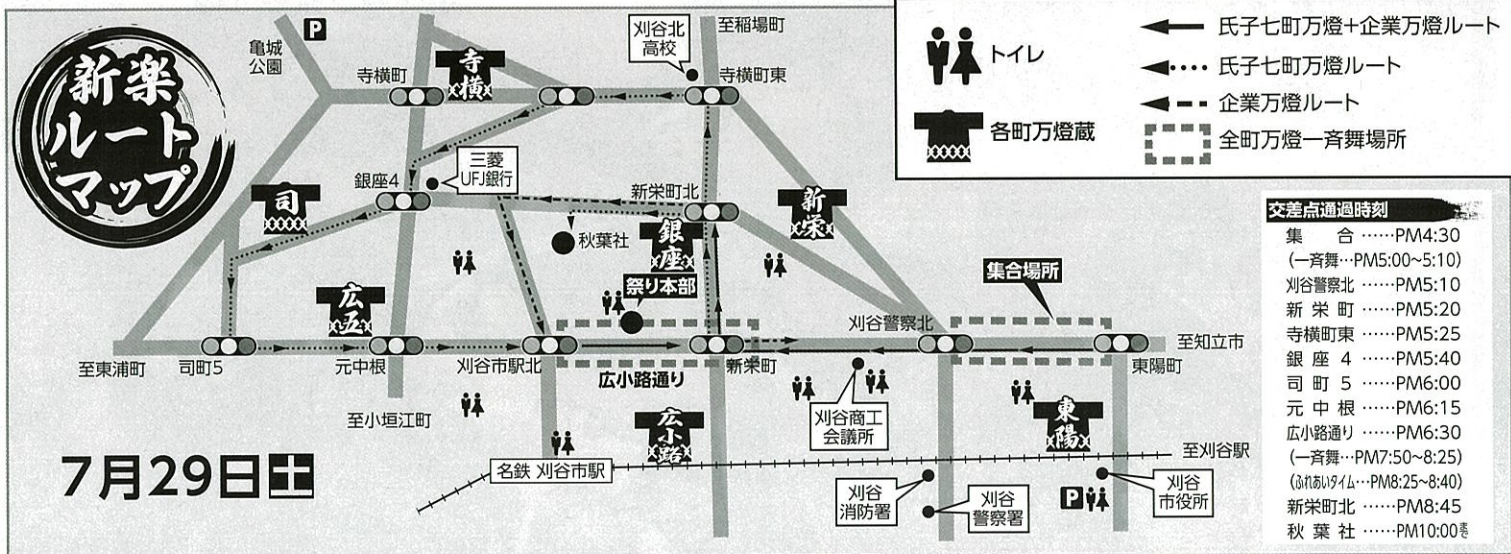
現在の祭礼は、7月最終土曜日と翌日の日曜日の2日間開催され、初日を「新楽(しんがく)」、2日目を「本楽(ほんがく)」と呼んでいます。新楽は、氏子7町(寺横町、司町、東陽町、新栄町、広小路五組、広小路、銀座)に加え、市内の企業や地区も参加し、10数基の大万燈と多数の子ども万燈が市内を練り歩き盛大に行われます。また、本楽では氏子7町の万燈が秋葉社の境内で舞を奉納する神前舞も披露されます。

【見どころ】

日が沈み、色鮮やかな万燈に火が灯り、真夏の宵闇に浮かび上がる万燈が舞い踊る様は実に勇壮に見る人の心を魅了する、まさに天下の奇祭と呼ぶにふさわしいお祭りです。

各町紹介

	若衆頭 川本 康平	寺横町	萬燈作品名 家康と金色の龍
	若衆頭 梶川 丈	司町	萬燈作品名 一条戻橋 渡辺綱 鬼退治
	若衆頭 小穴 義将	東陽町	萬燈作品名 平治の乱
	若衆頭 近藤 光平	新栄町	萬燈作品名 朝夷奈義秀 大鯨鮫ヲ生ケ捕ル
	若衆頭 古橋 一輝	広小路五組	萬燈作品名 木曾山中 樋口治郎兼光 大猿退治
	若衆頭 栢植 雄介	広小路	萬燈作品名 義経 八艘飛び
	若衆頭 高井 誠矢	銀座	萬燈作品名 大阪夏の陣 坂崎直盛-千姫救出



注意事項 ●当日は、祭り会場周辺で交通規制を行います。●時間帯ごとに通行可能道路が変わりますので、ご注意ください。●天候等の状況により、規制内容が変更となる場合があります。●会場周辺は大変混雑しますので、ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。●路上駐車はご遠慮ください。●小型無人飛行機(ドローン)などの利用は、事故防止のためおやめください。